

2022/01

いつ始めても
遅すぎることはない。

自分らしい言葉に 強い意思が宿る

コロナ禍で海外との往来が減少したが、
いずれ反動でインバウンドもアウトバウンドも急増するのではないか？
内弁慶な日本人が、再度、自身を客観視するよいきっかけになるはずだ。



先駆けて変革努力できる人財は、いつの時代もごく一部だ。

昨今、若手・中堅問わず、1ー2割から“やる気”の芽を感じ、久しぶりに日本の将来につきポジティブになっている。

以前から、海外出張時の滞在ホテルの格下げ、欧米駐在員の居住地の悪化は始まっていた。海外と関わる都度、物価の高さ（経済成長と健全なるインフレ）に日本の相対的貧困が浮き彫りになる。一方、海外富裕層から見れば、日本のホテルには改善余地が大きい。今後日本人には手の届かない外国人向け超高級ホテルが増え、国内に居ながらにして、格差を感じていくだろう。

先駆けて変革努力できる人財は、いつの時代もごく一部だ。昨今、若手・中堅問わず、1ー2割から“やる気”の芽を感じ、久しぶりに日本の将来につきポジティブになっている。

「次世代のキャリアとお金の考え方講座」に参加する大学生・若手社員からは、株式（相場観＝先読み）への高い関心、就社ではなく就職の意識、海外への自然な目線、ひいては自分の人生を自身で決める意思を感じる。中堅・年配層にも変化が見られる。60歳以降も働き続けるのなら、今から少しでも先を見据えた働き方を見つけないかとの意識が一部に芽生え始めた。

年齢不問、次世代変革人財には、「何事も、まずは自分の頭で考え、自分の言葉で表現しよう」とエールを送りたい。

私たち人財アジアは、“燃える目標！それぞれが人生の目的を発見する意義”について研修の最初に語る。たまに「パーパスって大事ですよ！」と軽く言われてがっかりする。なぜカタカナ？その言葉に自分なりの解釈をつけている？と矢継ぎ早に質問したくなる。

流行り言葉をなぞってハウツー本を読む人財は、人から何かを与えられないと思われ始められない受け身人間になりがちだ。自分の頭で大切なことを探し考える人財は0→1を生み出す変革人財となる。

受け身人財は、無意識のうちに大きな罫にはまる。海外発のコンプライアンスが輸入されて以来、上司から部下と向き合うのが怖くなったとの嘆きを耳にする。若手からは、上司に注意してもらえないので不安という声があがっている。“コンプライアンス遵守は、組織を持続的に成長させるためのアクセラレーターである”等、真の目的をそれぞれの言葉に置き換えることができた企業人がどれだけいたことか。

最終目的の曖昧なコンプライアンス強化の下、ハラスメントへの行き過ぎた恐れから対話が減ってしまったところで、今度は1 on 1 ミーティングの推奨だ。海外発マッチポンプといったらさすがに言い過ぎだろうか。

社員一人一人の方と向き合って、本音の対話を2, 3回繰り返すと、会社の進むべき道筋につき確固たる思いを持っているのがわかる。次世代を決めるのはそういう内なる声だ。これからは、プレイヤーもマネジメントも、言葉を大切に人財が変革をリードしていく。今回B-EATの会で語ってくださった久積氏は、まさに自身の言葉で業界に変化を起こしてきた方だ。歯に衣着せぬ攻めの姿勢に心から敬服している。

1月13日(木)・福岡発B-EAT オンライン講座 『燃える男・信念の貫き方』開催

今回は久積圭三様(株式会社FFG ビジネスコンサルティング
代表取締役社長)をお迎えして、講話と対談が行われました。
※モデレーターは岡村

B-EATはEATの学びを思い出し、さらにがんばろうと勇気づけられる場です。今回初めて、福岡発の講座に東京も合流して開催出来ました。久積さんは本音で語れる素敵なお方です。そして、昭和60年・バブル期の同期で、バブル崩壊後のビジネスを共に経験してこられました。今日は福岡・東京でのエピソードを通じて、ビジネスマンのあるべき姿について学びましょう。(岡村挨拶)

自然と人が集まる方、思いがある方、何より個人的に興味がある方をイメージして、久積さんにお話ししました。また、岡村先生とはお知り合いで、お2人が揃う機会は滅多にないので、今日は人生の糧にしたいと思います。(福岡4期幹事・佐藤さん挨拶)

人の縁はつながり、
年を取るほど収束されて
丸い円になる

岡村先生とは、福岡出身の先輩(EAT講師・宮田芳文氏)からの紹介で知り合った。今日の場もその縁が繋がった。通算36年、営業現場は今も含めて25年、本部が11年。福岡・東京・鹿児島どこへ行っても人とのつながりがありがたい。今も以前からの付き合い合い、これが銀行の一番の仕事。今後、銀行がどう展開していくか、非対面が主流になって来ているが、全てはお客さまの熱意を肌で感じながらやってきた。

いつの時代もバブルは形を変えて潜んでいる。 今、狂っていることは何か、考えることが大事。

- ・当たり前のことを貫く勇氣。罵倒されてもリスクを負ってやり遂げた現場からは真似できない迫力を感じる。
- ・福岡銀行の強さは回収に腹を括ったこと。さらに経営指導に深く入ることをセットでやったから、強さが定着した。腹の括りと工夫、どちらが無くても伸びない。危機の中にビジネスが生まれることは銀行だけではない学び。
- ・久積さんは業界には珍しく、初めから素を見せてくださったので、私も本音でなければ恥ずかしいと思った。信頼の輪が広がって行く、縁ではなく円という言葉が重い。
- ・組織の中で基準外な生き方をすれば、得も損もあるはず。お天道様が見ていると言う話、ブレることなく言うべきことを言う姿勢に魅かれる。(岡村コメント抜粋)



久積様のお話は相当なご苦労がイメージされましたが、お人柄と考え方が随所に滲み出ており、熱い人間味の中に包まれている感覚を覚えました。また、今と比較しつつ、バブル期以降の数あるエピソードには沢山の学びがありました。福岡4期幹事の皆さま、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。(文責:東京4期・現人財アジア 清古)

※次回イベントは3月4日(金)20時~人財アジア主催のネット対談

真正面から向き合った
バブル期奮闘のご経験
全ては諸先輩の力で自分は
従っただけ

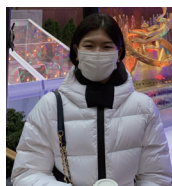
4日間の出張と言われて上京したが、そのまま8か月間福岡へ帰れず、昼夜・休日もなく、東京での債権回収に当たる日々。当時、株式を公開しても財務状況は詳細には開示しない時代。「開示しないと期日には返済してもらおう」と頭を下げて各地を回ったのは恐らく地方銀行初めてではないか。「地下鉄に乗る時はホームの前に立たない方がよい」と言われたこともあった。

少し大袈裟かもしれないが、命がけのリスクを負って必死だった。そんな状況の中、「福岡へ資金を全部戻して、九州の為に使おう」と、新たな方針が経営から打ち出された。起業融資の本質的な意味を考えて、大手行との量的貸出競争から転換した時期だった。平成7年に福岡へ戻ったが、東京から2年遅れでバブルが崩壊した。その後、そごうを始め相次いで倒産していく企業の清算処理を担当していく中で、当時の経営の判断で、崩壊前のサインを探り事前に対応を考える組織を立ち上げ、それが結果として後のソリューション営業への展開に繋がった。繋げることに全力を注いだ諸先輩方がおられた。債権回収だけでなく、銀行がどこに注力すれば、本業のキャッシュフローが生まれるのか、経営者と一緒に考える部隊の基礎となったと思う。

やらない理由・断る理由は100でも200でも出るが、やるために考える先輩がいた。自由にやっていい、と言ってくれる人もいた。その気質、DNAを受け継いでいって欲しい。必死な時、成長する時は役所相手でも戦っていた。

お天道様はいつも見ている
お客さまが窓口のカウンターに上って、激しいクレームを言われた。内容は真つ当だったので、間違っていたことは間違っていたと認めて謝った。人の接し方に秘訣はなく、誠意は通じる。正しいことをしつかりと話せば、怖がるものはない。謝るべきものは謝り、損害が起きていれば賠償すべきものは賠償して、現場の責任者として責任を取る。

What's up?



清水 亜佑美
AYUMI SHIMIZU

EAT ビジネス予備校
東京クラス(3期生)
某金融機関
投資銀行部門



皆さまお元気ですか?私は約1年間のニューヨーク赴任から帰国して半年が経ちました。コロナ禍の赴任でしたが、だからこそ日本人と米国人の常識・考え方の違いが顕著だったと振り返ってみて思います。個人的には、リモートワークが促進された結果、グローバルでのアクションが取りやすくなったと考えており、とても前向きな変化だと思います。